

2016年1月の望遠鏡観測の結果を(表-1)に示します。今月も寺迫氏からの観測報告がありました。

観測者 Observer	観測地 Locality	夜数 Night	時間 Time	流星数 Meteor			備考 Remarks
				Plot	S' n	Total	
寺迫 正典 (Terasako Masanori)	静岡県浜松市北区 (Hamamatsu shizuoka-pref)	7	450	-	79	79	15cm×25 27° Bino. 25cm×35 24° LT.
2016年1月計		7	450	0	79	79	HR 10.5

(表-1) 2016年1月望遠鏡観測結果

Table 1 Summary of the Telescopic Meteor observations in January 2016

● 出現数状況

2016年1月の出現数変化を(表-2)に示します。

UT														
日	開始 JST	終了 JST	分	中央時	観測方向 (Direction)	Plot	Seen	Total	HR	Mag	See	CI		
3	27	33	28	33	60	3.794	LMI, UMa, CVn, Dra, Iyr	-	15	15	15.0	11.5	rG	25cm L.T. *35
10	18	20	19	20	60	10.410	N	-	15	15	15.0	12.5	G	40cm L.T. *56
10	28	5	28	45	40	10.809	N	-	10	10	15.0	12.5	G	40cm L.T. *56
12	27	0	28	0	60	12.771	N	-	25	25	25.0	12.0	G	25cm L.T. *35
15	28	1	29	1	60	15.813	UMa, CVn	-	33	33	33.0	13.0	vG	40cm L.T. *56
15	29	10	30	10	60	15.861	Her, Oph, Sco, Vuu, Sge, Dei, Aql, Ser, Sct, Sgr	-	6	6	6.0	12.0	rG	15cm Bino. *25
16	18	10	19	10	60	16.403	Phe, Scl, Cet, Gru, PsA, Aqr, Cap, Aql	-	7	7	7.0	10.5	M	15cm Bino. *25
30	28	48	29	48	60	30.846	Lac, Peg, Cyg, Vul, Equ, Del, Sge, Aql, Sgr, Sct,	-	4	4	4.0	10.5	M	15cm Bino. *25
	6 Night				460	Min.		0	115	115	15.0			

(表-2) 2016年1月の望遠鏡流星の出現数変化

Table 2 Telescopic Meteors Observational data in January, 2016

● 光度分布

2016年1月の望遠鏡流星の光度分布は、(表-3)に示すとおりです。

	-5.0	-3.0	-2.0	-1.0	0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	L-Mag
寺迫 (Terasako.M)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	9	20	34	41	7	10.0 - 13.0
Total	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	9	20	34	41	7	

(表-3) 2016年1月の望遠鏡流星の光度分布

Table 3 Magnitude distributions of the Telescopic Meteors in January, 2016

Date(UT)	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	L-Mag	Total	Avg Mag.
3.794				1	8	6			11.5	15	10.33
10.410					1	6	8		12.5	15	11.47
10.809						5	5		12.5	10	11.50
12.771				1	5	9	10		12.0	25	11.12
15.813	1					7	18	7	13.0	33	11.82
15.861				1	4	1			12.0	6	10.00
16.403			3	4					10.5	7	8.57
30.846				2	2				10.5	4	9.50
Total	1	0	3	9	20	34	41	7		115	11.03

(表-4) 2016年1月の光度分布 (寺迫氏観測)

今月も、寺迫氏は多くの暗い流星を観測してましたので、各夜の光度分布を(表-4)に紹介します。また、報告とともに寄せられたコメントもあわせて紹介します。1月の観測は、従来の視野を移動する方法から固定した方法で行いました。25cm・40cm反射を対象に、北極星野と天頂で望遠鏡を向け固定して観測しました。

Table 4 Magnitude distributions of the Telescopic Meteors in January, 2016

(Terasako Obs. DATA)

昔から、肉眼観測や写真を撮影する場合、天頂付近の流星数が少ないので敬遠した方が良く言われたものですが、微光流星を対象とした望遠鏡流星の観測結果は大変興味深いものだったです。

結果が想像のようになりました。この結果だけでどうのこうの言えるものではありませんが、大雑把な傾向が掴めるような気がします。特に、40cm反射の結果を比較した場合、天頂で観測した13等級の流星を差し引いても数が多い傾向があるように思われますが、今後の観測が重要と考えます。ところで、固定した観測は、慣れないせいなのか、疲労に伴う集中力の欠如を非常に感じました。前半30分は何とか集中力を維持することが出来るのですが、後半の30分は如何ともし難く、苦痛で襲われ、たびたび、視野から目をそらし、しばらく星空を眺めては視野を見つめるの繰り返しで、後半は如何の時間までも観測できたのか自信を持って言えません。もう歳なんではしょうか! 皆さんのご苦労が伺えます。

● 幹事から

寺迫氏から早々と報告をいただきながら、なかなか観測報告をまとめられませんでした。メインのパソコンの調子が悪く、ただデータをまとめるだけで申し訳なく思っています。毎月興味深い報告を寄せていただく寺迫氏に感謝申し上げます。来月にパソコンを更新します。